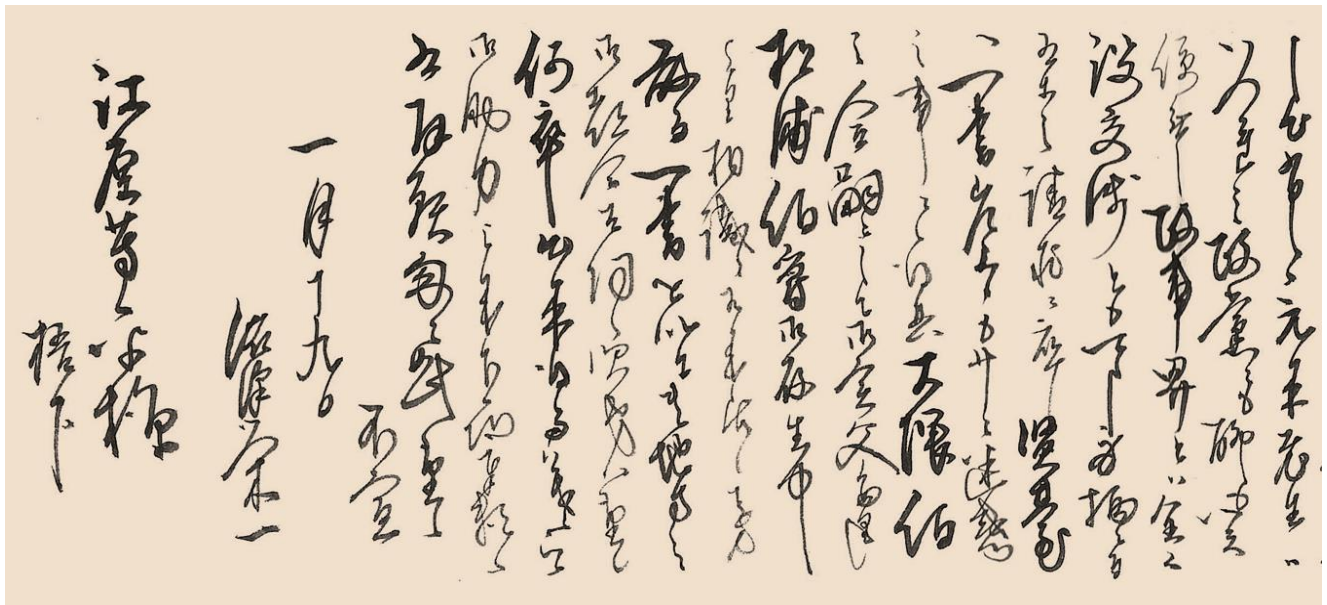


文書館だより

TEL027 (221)2346

URL <https://www.archives.pref.gunma.jp>

第66号 令和4年3月



〔江原芳平宛の渋沢栄一書簡〕 大正4（1915）年1月19日
（前橋市・江原毅家文書 P0113 No.1097-1）

これは、大正4年の衆議院議員総選挙に際し、大隈重信首相の養子信常が大隈伯後援会から前橋選挙区で出馬した際の舞台裏を語る重要史料です。書簡の前半には、「昨年議会解散二付、当春二於而者貴地方之候補者八如何之御都合二相成候哉、頃日来大隈伯爵、御養嗣たる信常氏を貴地方之候補者二推薦セラレ候二付、いまた経験も乏敷世間之知己も少く候得共、幸二地方有力之後援者にても有之候ハ、奮発いたし度」とあり、「貴地方」の「有力之後援者」に江原芳平がなってくれることを暗に期待しているようにも読みとることができます。『渋沢栄一日記』大正4年1月19日条には「大隈信常氏来リテ立候補ノ事二付前橋市へ出状ノ事ヲ依頼セラル」とあり、大隈信常自身が渋沢を訪れ、立候補について前橋市（おそらく江原芳平）へ手紙を出すことを依頼していることがわかります。書簡の中で渋沢自身が述べているように、従来渋沢は政党には関わらない姿勢でしたが、大隈信常からの依頼で、今回は特別に長年懇意にしていた江原芳平（第三十九銀行頭取、前橋商工会議所初代会頭）に対し信常への支援を頼んだと考えられます。渋沢栄一と政治との関わりを考え直す上でも貴重な史料です。なお選挙の結果、現職の竹越与三郎（立憲政友会）が落選し、信常が当選しました。

この史料の画像全体と釈文は、当館 HP の展示コーナー（令和3年度テーマ展示「群馬の近代産業のめばえ～渋沢栄一・渋沢一族との関わり～」）でいつでもご覧いただけます。

閲覧室利便性向上案内

長引くコロナ禍による利用制限で、当館をご利用の皆様にはご不便をおかけしておりますが、ご利用のお時間を少しでも有意にお使いいただくため、次のような方策を実施させていただきます。

■文書閲覧票等の電子メールによる事前連絡

当館ホームページの「収蔵資料の検索」から目録検索を行い、ご覧になりたい文書等を選択して「文書閲覧票」や「特定歴史公文書等簡易閲覧申込書」を事前に電子メールで送付し連絡していただきますと、ご来館にあわせてご用意できるようにいたしますので、待ち時間が短くなります。

【電子メールにより事前連絡いただく場合の留意事項】

- ・ご自宅等で目録検索の結果を文書閲覧票等に表示させ、PDF印刷によりパソコン等に一旦ファイル保存し、そのPDFファイルを当館代表メールアドレス (monjyo@pref.gunma.lg.jp) へ送信願います。お名前や利用券番号等は、空欄のままでも結構です。(ご来館の際、当館で印刷したものにご記入いただきます。)
- ・一度に閲覧いただける資料は、特定歴史公文書等(簡易閲覧申込書)は5点まで、その他(古文書等)は10点まで(ただし、合計10点まで)です。初回分の閲覧が終了後、別の資料を同様な上限点数の限りで、次の閲覧ができます。なお、メール事前連絡については、一度に全件分の文書閲覧票等を受付できます。
- ・特定歴史公文書等利用請求書(簡易閲覧ができないもの)につきましては、電子メールで事前に予定連絡を承ることができませんが、本書の提出は必ず郵送又はご持参によることとしてください。また、原則30日間の公開審査期間をいただきます。詳細は当館ホームページをご覧ください。

■撮影台



撮影台については、付属のライトをLEDに替え、従来よりも数倍の光量になりました。ぜひご利用ください。(ご利用は無料)

■スキャナの設置

利用者の方が自由にご利用できるオーバーヘッドスキャナを2台設置しました。これにより、劣化防止のためコピー機を使用できない資料もご自由に複写していただけます。

操作方法等がわからない場合等は職員がお手伝いいたします。

なお、ご利用に当たっては実費として次のとおりの代金を申し受けます。

プリンターによる紙出力：白黒1枚10円、カラー1枚50円、

CD-Rへの複写：1枚につき200円に文書等1枚ごとに10円を加えた額

DVD-Rへの複写：1枚につき220円に文書等1枚ごとに10円を加えた額

いずれの場合でも、複写等申込書をご提出いただけます。



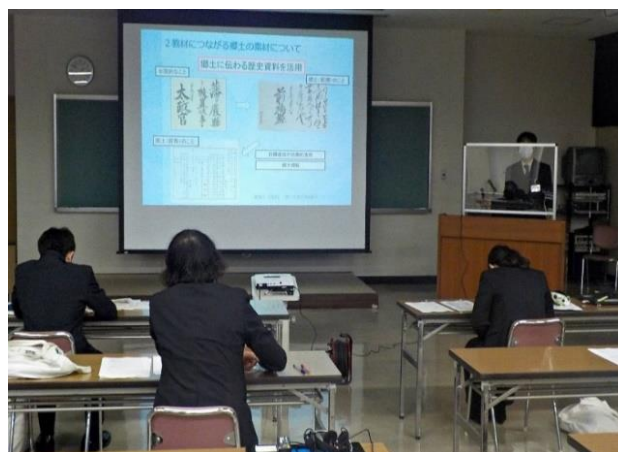
教育機関との連携業務 ～郷土の歴史資料を授業活用へ～

当館では「学校連携」として、各種教育機関と収蔵史料を中心としたさまざまな連携に取り組んでいます。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対応のために実施を見送ったものもありましたが、安全性に配慮したうえで実施できた主な取組を紹介します。

■初開催！ 「教員向け研修講座」の実施

令和3年11月9日、当館では初めてとなる教員を対象とした研修講座「小・中学校における社会科授業づくりのポイント～郷土の歴史資料を活用した教材開発研修～」を開催しました。この研修講座は、群馬県総合教育センターの「社会科・地理歴史公民科研修講座」として、県内の小学校・中学校（社会科）の教員から希望者を募り、当館を会場として実施しました。

研修講座では、事前に作成した教材化史料（当館HPで公開中）を中心に、収蔵史料の活用を図るためのプログラムを組み込みました。当日は多数の「実物の史料」を



用意し、参加した教員に触れていただきました。また、新学習指導要領に対応した「郷土の歴史資料の教材化」についてのポイントを踏まえた演習や、史料デジタル化の演習も取り入れ、授業に直接結びつく研修として内容の充実を図りました。

参加した教員からは「本物の史料に触れ、歴史の面白さを感じることができたので、授業に反映させたいと思う。」「新しい視点を得ることができた。」などの意見も出され、今後の授業での活用が期待されます。



■文書館って、どんなところ？ 「文書館施設見学」の受入

令和3年11月4日、前橋市立天川小学校の3年生が、総合的な学習の時間の「地域を調べて発表しよう」において、地域の公共施設の役割などを学習するために来館しました。収蔵史料に興味深く見たり、書庫や作業室、閲覧室などを見学したり、楽しそうに活動する児童たち。作業する職員の話や、文書館の役割・地域史料の説明にも熱心に耳を傾け、事細かにメモを取ったり質問をしたりする積極的な姿がとても印象的でした。当館にとっては、基本業務「集める・整理する・保存する・利用してもらう」を直接児童に伝えられる重要な「施設見学」でありました。

■歴史って、何からできるの？ 「歴史学習」の授業協力

令和3年12月1日、前橋市立第五中学校の1年生が、歴史分野の学習に関連させて「歴史」そのものに対する興味・関心を高める機会とするために来館しました。

当館では展示でも取りあげていた「渋沢栄一」に関する史料を中心に、展示解説を行いました。また身近な郷土史料として、江戸時代に描かれた村絵図（現在の学校区周辺が記載）を紹介し、今と昔の様子を対比しながら史料を読み解きました。この他にも、群馬県の鶴舞う「形」がわかる国絵図（原寸大520cm×555cmの分割特殊マット）も活用しました。マットをパズルのように移動させたり、今も残る特徴的な景勝地の当時の姿を見たりして、昔の郷土の様子がわかるように解説しました。学校周辺の現在の場所と、絵図が示す場所との繋がりがわかり感嘆の声をあげる様子や、楽しそうに「昔の郷土の姿」を見る姿が印象的でした。

普段教室で学習する「歴史」が、何をもとにしてつくられるのか。その一端となる身近な歴史資料に触れたことで、歴史そのものに興味・関心をもち、今後の学習にいかしてくれることを期待しています。



テーマ展示「群馬の近代産業のめばえ～渋沢栄一・渋沢一族との関わり～」
開催報告



会期は8月3日(火)～11月14日(日)の予定でしたが、好評につき2月27日(日)まで延長されました。インターネット展示も同時に開催し、1,487名の方にご観覧いただきました。

本展示では、幕末から明治前半までの特色ある群馬の産業発展の一端を、NHK大河ドラマ『青天を衝け』の主人公、日本資本主義の父と呼ばれる渋沢栄一や渋沢一族と群馬との関わりも交えながら、当館収蔵の古文書や歴史的公文書より紹介しました。

「1. 渋沢一族と上州・群馬」で紹介した〔江原芳平宛の渋沢栄一書簡〕(江原家文書)

は、新聞各紙にも採り上げられるなど、注目を浴びました。「2. 製糸業の近代化～前橋製糸場・富岡製糸場・新町屑糸紡績所～」では、日本で最初に器械製糸を採用した前橋製糸場を中心に構成し、「速水堅曹履歴抜萃 甲号 自記」(速見家文書)などを展示しました。「3. 東京瓦斯局と鉱工業 ～高崎炭田・煉瓦工場・中小坂鉄山～」では、中小坂鉄山に関する公文書を中心に渋沢栄一が事務局長を務めた東京瓦斯局との関わりを明らかにしました。「4. 日本鉄道会社と渋沢栄一」では、日本鉄道会社の時刻表や出資者一覧などを展示しました。

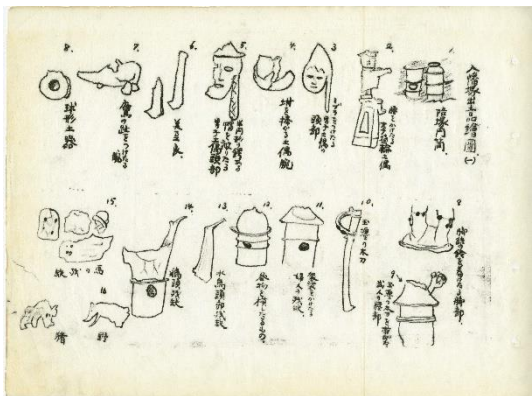
新規公開文書展2022(インターネット展示)のお知らせ

令和3(2021)年度、新たに閲覧公開した公文書・古文書の中から特徴的な歴史資料を精選し紹介しています(3月19日(土)開始)。

新型コロナウイルス感染症対策として「いつでも、どこでも見られる」インターネットにて開催中です。文書館のホームページの「展示」を覗いてみてください。

公文書 「古墳調査台帳」

昭和10(1935)年に古墳保護のため全県域で実施した古墳調査結果を記した台帳です。この調査で県内に8,423基の古墳の存在を確認し、当時の古墳の様子がわかる絵なども収録しています。



古文書

本号9ページに記載されている文書群から、大笹関所や浅間山の描かれた絵図、四万温泉、北代田村大競馬会、前橋町本陣松井家の俳諧に関する資料などをご紹介します。解説文もありますので、くずし字に慣れていない方でもお楽しみいただけます。

長期古文書講座開催報告

古文書講座のリピーターの方にもご満足いただけるように、今年度より講座内容を再編成しました。例年実施している講座内容のAに加え、1～2点の文書（冊物類）をじっくり読み進む「特論」のBを新設し、A・Bいずれか単独でも受講できるようにしました。また、講座の時間帯も、希望の多かった午前（10：00～12：00）に戻しました。

A 長期古文書講座

回	月日（各土曜日）	テーマ	講師
1～3	11月6・13・20日	近世文書読解演習1～3	巻島隆氏 (群馬大学元非常勤講師)
4・5	11月27日・12月4日	近代文書読解演習1・2	丑木幸男氏 (国文学研究資料館名誉教授)
6・7	12月11・18日	中近世文書読解演習1・2	須藤聡（当館職員）

B 長期古文書講座（特論）

回	月日（各土曜日）	テーマ	講師
1～3	1月8・15・22日	近世文書特論1～3	関口荘右（当館職員）

今年度から初めて講師陣に加わった巻島講師は、専門の飛脚文書を取り上げ、飛脚制度を通じ江戸時代の社会を読み解きました。丑木講師は、明治初期に栃木県の管轄下だった東毛三郡に関する文書を中心に行いました。須藤講師は、戦国期から近世前期の三波川村の飯塚家文書を中心に山村の暮らしを紹介しました。関口講師は、赤堀伴七が記録した「安政記聞 三」（赤堀家文書）から安政6年（1858）の部分を抽出し、詳しく読み解きました。

ぐんま史料講座開催報告

テーマ展示「群馬の近代産業のめばえ～渋沢栄一・渋沢一族との関わり～」に関連し、10月23日（土）に開催しました。講師に共愛学園前橋国際大学名誉教授の宮崎俊弥氏をお迎えし、「島村蚕種業と渋沢栄一」というテーマで行われました。

宮崎氏は、当館収蔵史料（マイクロの田島弥平家所蔵文書等）を中心に読み解きながら蚕種業で有名な島村（伊勢崎市境島村）と渋沢栄一とのつながりをわかりやすく明らかにしました。まず渋沢栄一の生地血洗島は、島村と同じ利根川右岸であり、島村の田島武平は親戚で密接な交流があったことを紹介しました。次に渋沢栄一手記「出がら繭の記」や画像史料も使いながら、田島武平による宮中養蚕奉仕が渋沢の推薦によるものであったと述べました。さらに島村の蚕種業発展の中心となった島村勸業会社の設立には、渋沢栄一が定款と申合記録の作成、申請手続きへの助言など、様々な場面で深く関与していたことを渋沢栄一書簡（田島信孝家所蔵）などを読み解きながら明らかにしました。

文書以外にも地図・写真など豊富な史料を駆使した宮崎氏の講義によって、受講者は令和3年の大河ドラマの主人公の渋沢栄一が郷土の産業振興にもいかに貢献したか具体的に知ることができ、アンケートによれば全員の方が「良かった」と評価していただきました。



当館インターネット講座の利用状況について

令和2年度・3年度 群馬県立文書館 インターネット講座一覧(令和4年1月末現在)

No.	講座名・概要・掲載文書点数	連載期間・更新	2年度アクセス件数・順位	3年度アクセス件数・順位
1	インターネット講座 第1弾【初級編・中級編・上級編】 インターネット古文書講座 全204点	平成17年1月～25年8月 途中2点更新	50,445 1位	37,595 1位
	インターネット古文書講座で使用したテキスト文書は、群馬県立文書館発行『ぐんまの古文書 上・下』に掲載(残部無し、再版予定無し)。			
2	インターネット講座 第2弾【入門編】 初心者のための「お茶の間古文書講座」 全3点	平成25年9月～26年12月 月1回更新	15,976 3位	12,400 3位
	これから初めて江戸時代の古文書の解読学習に取り組んでみたいという方を対象とするもの。ほっぶ編「慶安御触書」(P8214 No.2282-2)全21回、すてっぶ編「五人組帳前書」(P8217 No.1382)全24回、じゃんぶ編「浅間山大変記」(P08005 No.80-3)全24回。			
3	インターネット講座 第3弾【初級編】 チャレンジ!「演習ぐんまの古文書入門」 全60点(ネット掲載分)	平成27年1月～29年7月 月2回更新	21,307 2位	16,758 2位
	初心者のための「お茶の間古文書講座」で学習してきた方を対象とした入門編。古文書や公文書を掲載。1 領主と村役人、2 土地と年貢、3 村政と戸口、4 関所と温泉、5 人・物の移動、6 災害と社会、7 近代行政文書 ※本講座使用テキスト文書は、より見やすく再編集され、『ぐんまの古文書 続編 一文書館の古文書70選一』(令和2年3月発行)。新たに戦国期から近世初期の文書10点を加えた(計70点)。当館2階閲覧室、書店などで販売中。1冊1,009円(税込)。			
4	インターネット講座 第4弾【中級編】 すてっぶ・あっぶ!「ぐんま古文書ゼミナール」 全24点	平成29年10月～30年9月 月2回更新	7,286 5位	4,825 5位
	当文書館職員が、平成23年度～同28年度の「長期古文書講座」で使用したテキスト文書約110点の中から、やや長文のもの、江戸時代の庶民生活の一端がうかがえる古文書24点を精選し掲載。元文元年(1736)「蚕種代金滞り一件添状依頼」(P8213 No.7806)～元治元年(1863)「吾妻川通船試稼ぎ方上申」(P8003 No.3342)。			
5	インターネット講座 第5弾【入門・初級・中級編】 ジャンプ・アップ!「ぐんまの近代文書選」～古文書から読み解こう!近代ぐんまの歩み～ 全66点	平成31年2月～令和3年9月 月2回更新	9,970 4位	6,630 4位
	当文書館主催、昭和61(1986)年度～平成27(2015)年度の「長期古文書講座」で使用した幕末・維新时期～明治期・大正期・昭和初期に至る近代文書約300点の中から、明治期を中心に66点を精選し掲載。			

前記一覧表は、当館ホームページ上のインターネット講座について、令和2年度・3年度のアクセスランキングなどをまとめたものです。両年度とも第1位は、第1弾【初級編・中級編・上級編】「インターネット古文書講座」です。続いて、第3弾【初級編】チャレンジ！「演習ぐんまの古文書入門」が、2年度第3位、3年度第4位と続いています。

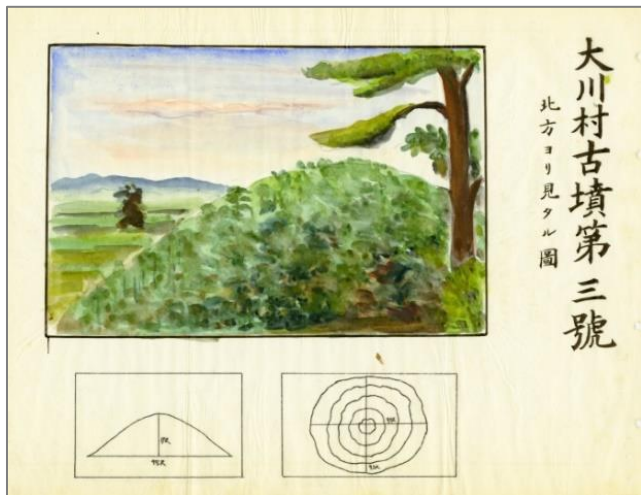
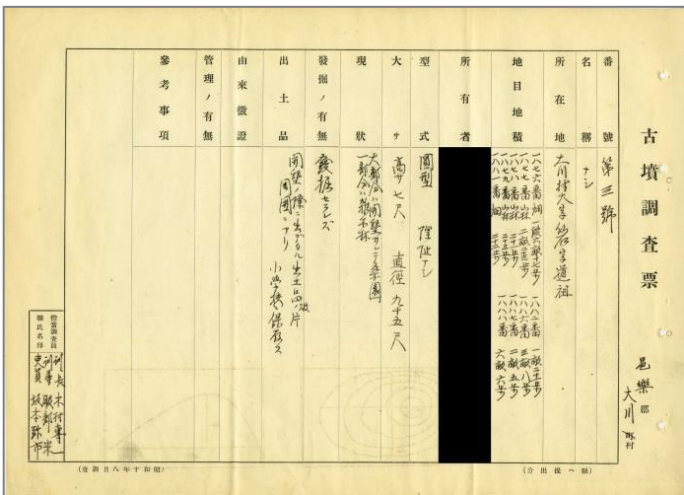
また、第2弾 初心者のための「お茶の間古文書講座」には【古文書学習の心得】、第3弾・第4弾 すてっぷ・あっぷ！「ぐんま古文書ゼミナール」には【初心者のための演習用古文書の学び方】を箇条書きで掲載し、古文書学習の要点、上達ポイントなどを解説しています。

現在、当館では、第6弾のインターネット講座を計画中です。引き続きの閲覧・ご利用をお願いいたします。

デジタルギャラリー開設

令和3年6月、当館ホームページ上に「デジタルギャラリー」を開設しました。

この「デジタルギャラリー」では、当館所蔵の貴重な資料がインターネットでいつでもご覧いただけます。現在掲載している資料は約400点ですが、随時、追加していきますので、ぜひ、ご利用ください。



新たに収集した古文書・新たに閲覧公開した古文書

●新たに収集した古文書

	伝存地・文書群名等	内容等	点数
1	群馬県 中島家旧蔵文書(寄贈)	小栗上野介の知行地群馬郡権田村の、近世から明治初期の地方文書。絵図も3点ある。	52点
2	前橋市三俣町 吉田甲治氏収集文書(寄贈)	近世から明治期の教科書約90点のほか、上大島村などの前橋周辺の村方文書など。	178点
3	太田市丸山町 青木勝明家文書(追加寄贈)	明治期切絵図8点、昭和期切絵図1点、近世幕末期文書1点、明治期文書2点など。	14点
4	多野郡神流町 梅島幸雄家文書(寄贈)	近世から近現代の村方文書。青梨の普明寺の文書もある。群馬県史編さん室調査史料。	約400点

●新たに閲覧公開した古文書

	伝存地等・文書群名 (請求番号)	内容	点数
1	前橋市池端町 齋藤羊太郎家文書 (P9404)	江戸期の質地証文・明治期の売渡し証文が多いが、榛名山の蒸湯関係、幕末期の攘夷派の史料などもある。	296点
2	前橋市朝日町 江原毅家文書 (P0113)	渋沢栄一から江原芳平(貴族院議員)に宛てられた、大正4年の衆議院総選挙に関わる書簡2点などがある。	16点
3	吾妻郡嬭恋村 大笹区有文書 (P2002)	寛文検地の結果を反映した大笹村・田代村の村高、当時の字名等が記載された〔大笹村・田代村絵図〕。	1点
4	前橋市北代田町自治会文書 (P8905)	文書の半数は明治期のもので、近衛師団の演習、競馬会、地区内の二ツ橋に関する史料などもある。	804点
5	伊勢崎市東小保方町 萩原信之家文書 (P0201)	旗本・久永家の代官の家に伝わった文書、第2次公開。御用状など近世の書状・覚書、書籍・版本類。	1930点
6	前橋市本町 松井家旧蔵文書 (P01013)	前橋町本陣で俳人素輪の家に伝わった文書、第2次公開。近世の上州内外の人の俳諧短冊、扇子、断簡など。	1003点
7	前橋市河原浜町 河原浜区有文書 (P1803)	近世の村方や近代戸長役場の文書など。大胡城跡が描かれた絵図や城跡の利用がわかる文書もある。	2080点

8	前橋市元総社町 長尾貞治家文書 (P O 1 9 0 2)	聖護院流本山派修験に携わっていた家の文書。内藤分村の東覚院（東学院）に関する認許状などがある。	1 2 7点
9	吾妻郡中之条町 関善平家 文書 (P F 0 2 0 9)	四万温泉の積善館に伝わった文書。近世の温泉渡世の様子がうかがえるほか、日向見薬師堂に関する文書もある。	3 4 7点
1 0	前橋市本町 勝山敏子家文 書 (P F 1 9 0 1)	前橋町年寄を務めていた家に伝わった文書。勝山源三郎関係や、廃藩置県のあった年の町年寄日記などがある。	3 1 1点
1 1	前橋市本町 松井家旧蔵文 書 (P F 1 9 0 2)	前橋町本陣の家に伝わった文書。町年寄関係のほか、素輪の俳諧日記、明治期の内国通運関係なども ある。	4 7 1点

※9～11は複製本による閲覧となります。そのうち、10・11は当館所蔵の原本の一部を「前橋町年寄関係文書」として、勝山敏子氏の寄付金によりデジタル化し作製したものです。一部は前記のデジタルギャラリーでもご覧いただけます。

コロナ禍におけるレファレンスと事例紹介

令和3年度も新型コロナウイルス感染症が収束しなかったことにより、閲覧室の利用等で生じた質問への対応を除く対面レファレンスは、なるべく遠慮させていただきました（古文書解説の読み合わせ、など）。この結果、対面レファレンスの実施件数は、昨年よりもさらに減っています（1月末時点の比較で34件→31件）。

その代わり電話・メール等によるリモートのレファレンスは、相談者・対応職員が非接触で安全にできることから引き続き推奨した結果、昨年度よりも増加しました（1月末時点での比較で75件→80件）。特にメールは、お互いが都合のいい時に連絡がとれることもあり、古文書解説の読み合わせでも行っています。なお対面・リモートに関わらず、古文書読解のレファレンスの場合、時間短縮のためにも、事前に釈文（読める範囲で構いません）の提出をお願いしています。

レファレンス事例1

<質問>慶長7（1602）年徳川家康によって伝馬朱印状が岐阜県の御嵩宿（みたけじゅく）などに出されています。江戸時代、群馬県内の中山道でも伝馬朱印状の出された例がありますか？

<回答>

慶長7年に江戸幕府（徳川家康）によって出された伝馬朱印状は、現在のところ群馬県内では現物は確認されていません。ただし倉賀野・高崎宿には御嵩宿と同じ日付で、「伝馬定書」「伝馬・駄賃定書」の写しが残されています（『新編高崎市史』資料編6 No.167・168）。もしかしたら朱印状も出されたものの、現在残っていないか、まだ見つからない可能性があります。

なお戦国時代には、小田原北条氏が天正10年(1582)倉賀野商人宛に七か条の伝馬掟(虎朱印あり)をすでに出しています(『群馬県史』資料編7 No. 3212・堀口文書)。北条氏領国内では、戦国時代の段階ですでに伝馬制度が整備されていました。このように江戸時代より先行して伝馬朱印状が出されていることから、あえて慶長7年には朱印状を出す必要がなかった可能性も推測されます。

レファレンス事例 2

<質問>群馬郡の読みはいつから「クルマ」から「グンマ」になったのですか？

<回答>

実は明確にいつ読み方が変わったのか、わかりません。漢字に振り仮名をつけた史料はどの時代でもほとんど残されていないので、その時代の人たちが地名や人名をどのように読んでいたのかというのは、意外に難しい問題です。

中世には「クルマ」という読みが根強く残っていたことが文献資料からうかがえます。江戸時代前半の寛文4年(1664)に「上野国国絵図」が作成された際、国絵図作成に関わった武士の記録には群馬郡に「クルマ」・「グンマ」の両方の振り仮名が振られています(熊谷家文書の「国図要録」。『双文』7号のP59に掲載)。遅くとも江戸時代前半までには「グンマ」の読みが生まれていたことはわかりますが、依然「クルマ」の読みも使用されていました。さらに明治時代にも久留間(くるま)村が合併で生まれていることから、この時代にもまだ「クルマ」の読みが残っていました。いつ「クルマ」の読みが完全に消えたかは不明です。

最新刊「双文」37号のご紹介

「翻刻 前橋町年寄関係文書～「萬雑扣」「雑記録」～」

当館で公開している「勝山敏子家文書」のうち、近世文書2点を翻刻したものです。

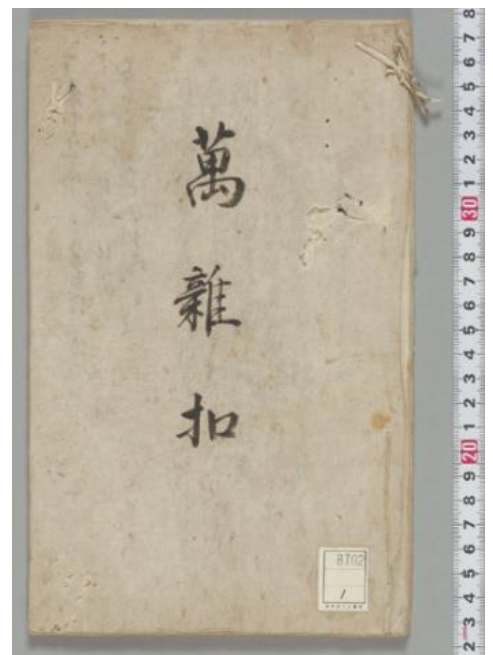
①天保2年のものと思われる「萬雑扣(町内出火外諸事願書留)」

火事そのものだけでなく、火事の際の盗難、不審火に関する届書5点、ほかに町人の釈放の嘆願書2点など。当時の前橋町の様子的一端がわかる史料です。

②慶応2年以降に勝山家当主の勝山源三郎氏が書いたと思われる「雑記録」

前橋城再築に関する褒賞など、前橋藩(県)や明治政府からの触達書の写しが中心です。興味深いものとして、明治元年冬の藩役人の役職と氏名の一覧があります。源三郎は町年寄を務め、藩主の前橋帰城の嘆願などに尽力し、明治期は前橋生糸改所頭取、東群馬郡の県会議員として活躍した人物です。

☆『双文』は当館の研究紀要です。現在は当館のホームページ上にPDF版を公開しています。ぜひ、ご覧ください！



文書館 tsulunos (ツルノス) 動画配信

令和2年4月24日、県の魅力を発信する拠点として動画・放送スタジオ「tsulunos」(ツルノス)が群馬県庁32階にオープンし、YouTubeチャンネルを通じて動画を配信しています。

当館では、昨年度の『やさしい古文書講座』『収蔵史料でみる「群馬県」ができるまで』などに加えて、今年度も、下記の動画を制作し動画投稿しました。

ナゾの文書館に行ってみた(約3分でわかる文書館の使い方) (約3分)

県立文書館テーマ展示「群馬の近代産業のめばえ
～渋沢栄一・渋沢一族との関わり～」の世界 (約7分)

今後の行事予定

展 示

- ・テーマ展示 「前橋藩士諸家文書の世界
～朔太郎の母方・八木家文書を中心に～(仮)」(予定)
- ・収蔵文書展2023 「収蔵史料でふり返る上州・群馬の災害・疫病
～天明三年浅間焼けと災害を中心に～」(予定)

講 座

古文書入門講座(初級3回、中級2回)土曜日 午前10時～12時

- ・古文書入門講座1(初級編)7月9日、16日、23日
- ・古文書入門講座2(中級編)7月30日、8月6日

長期古文書講座(7回、3回)土曜日 午前10時～12時

- ・長期古文書講座1(中近世、近世、近代、)9月10日～10月22日
- ・長期古文書講座2(特論)11月5日～11月19日

群馬県民の日記念・開館40周年記念行事 10月29日(土)



交通のご案内

- ◆ JR両毛線 前橋駅から徒歩25分、バス15分

群馬県立文書館だより第65号
令和4年3月31日発行
編集・発行 群馬県立文書館
〒371-0801
群馬県前橋市文京町3目27-26
電話 027-221-2346
題字/岡庭征人書